

発行/坂城町公民館 発行人/塚田 常昭 編集/広報部 印刷所/滝沢印刷(同)
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 文化センター内
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



◆主な内容◆

- 令和3年度公民館体制 2P
- 立町区新公民館落成式 3P
- ふるさと探訪PART110 4~6P
- 公民館行事から、500字リレートーク 7P
- 今後の行事予定、館説「開畝」 8P

格致学校の桜

学校には、桜が植えられているところが多くあります。4月、入学式や新学期の始まりを祝うかのように、桜の花がきれいに咲き誇りました。桜は、新たなスタートを切るためのエネルギーを与えてくれます。

教育委員会イベント・講座一覧 (9月まで)

3月に発行した『まなびの玉手箱』の各種イベント・講座について、9月までの今後の予定をお知らせいたします。イベント・講座についての詳しい情報につきましては、文化センター生涯学習係 (TEL 82-2069) までお問合せください。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、変更となる場合があります。

行 事 名	日 程	対 応
公民館文化講座	4月開講	感染対策を行い、開講中
としょかん講座	4月開講	感染対策を行い、開講中
リトミック教室	5月開講	感染対策を行い、開講中
キッズスポーツ教室	5月開講	感染対策を行い、開講中
さかきふれあい大学 専門講座	5月順次開講	感染対策を行い、開講中
長野大学坂城町講座	5月順次開講	感染対策を行い、開講中
さかきふれあい大学 教養講座 「戦国時代は何を残したか」	6月 20日(日)	感染対策を行い、開講予定
第43回納涼音楽会	7月 3日(土)	感染対策を行い、実施予定
さかきふれあい大学 教養講座 「千曲の谷から不思議な宇宙へ」	8月 5日(木)	感染対策を行い、開講予定
第65回成人式	8月 14日(土)	感染対策を行い、実施予定
第66回成人式	8月 15日(日)	感染対策を行い、実施予定

生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。ご利用ください。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円 香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。
婚儀・・・祝儀(会費)3,000円 引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

館説 開畝

バラの花が美しい季節になりました。バラにはさまざまな種類がありますが、野生のバラは世界で一〇〇〜一五〇種と言われています。十九世紀初頭から人工交配が急速に進み、自然にはないバラが次々と誕生しました。現在、登録されているものはおよそ二万五千品種あり、登録されていないものを含めると三万品種とも、それ以上とも言われています。坂城町にも、オリジナルローズの「さかきの輝き」があります。朱色に近いピンクで、色合いがとてもきれいです。この「さかきの輝き」も、人工交配で作られました。

「美しいバラにはトゲがある」という言葉があります。「どんなすばらしいものにも、気になる一面がある」という意味等で使われることわざです。もともとは、十七世紀のフランスの「とげのないバラはない」が本来の形のようにです。これを人に置き換えてみると、「欠点のない人はいない。誰にでも短所はあるが、だからこそ長所を見よう。」という意味に考えることができます。このような見方をすると、「美しいバラにはトゲがある」と、「バラはトゲがあるけど美しい」と捉えることもできませんか。「短所はあるけれど、それも含めて長所を認めていく。」そんな考え方が人々に満ちあふれると、世の中がほんわかとしたたかく感じるができるでしょう。

さかき千曲川バラ公園では、バラがきれいに咲き始めました。バラ公園内には、三三〇種二三〇〇株のバラが咲き誇っています。大変残念なことです。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、昨年に引き続き、さかき千曲川バラ公園への来園を自粛していただいております。ご理解とご協力をお願いします。

令和3年度坂城町公民館事業スタート!

令和3年度の公民館活動がスタートしました。
本館専門部のみなさん、分館役員のみなさんを紹介します。一年間よろしくお祈りします。

分館役員のみなさん

(敬称略)

分館	分館長	副分館長	文化部長	体育部長	広報部長
鼠宿	中澤 修治	高松 昌雄	米田 裕行	前沢 昌昭	戸谷 徹
新地	清水 守	瀧澤 幸雄	内山 貴博	神林 臣徳	西澤 文典
金井	青木 昌也	宮原 邦彦	田中 健二	小山 貴司	山極 正幸
入横尾	片山 昭裕	高橋 直昭 成澤 孝治	山崎 直人	西澤 務	浅井 隆志
町横尾	宮下 文和	窪田 茂幸	中澤 潤一	富田 武	竹本 修
泉	宮下 裕一	水出 勝美	西川 真琴	大畑 良多	野崎 友美
中之条	丸山 隆夫	中島 正真 橋本 真弓	塚田登勢子	中嶋 良三	滝沢美智子
四ツ屋	富山 澄良	中村 修二	宮原 賢治	阿藤 晃士	池田 辰美
戌久保	都筑 建誌	清水 透	都筑 建誌	赤池 茂夫	千野 正男
御所沢	滝沢 孝男	滝沢 英俊	富山あけみ	塩野入良夫	滝沢 美佳
田町	近藤 敏朗	水野 弘子	今井 幹矩	米山 智裕	小宮山栄子
横町	荒巻 春也	相川 正道 塚田 克好	小林 秀次	高橋 昭	清水 肇
込山	瀧沢 治	遠藤 浩一	小宮山 崇	中沢 慶一	酒井 文志
立町	坂口 克彦	中澤 裕一 飯島 克芳	伊藤 康文	児玉 秀一	関戸 正文
旭ヶ丘	一之瀬雅仁	荒井 幸義	滝沢 修治	小山 歩美	森垣 正代
南日名	内山 文人	笠井 勇隆 山浦 稔	小宮山哲也	内山 和久	小宮山哲也
北日名	春日 和彦	西澤 敏雄 山崎 稔	西澤 滋	中村 公彦	山崎 敏雄
日名沢	滝沢 実	大橋 千明	丸山 岳志	西澤 幸一	前田 啓子
大宮	岡部 毅	北沢 敬治	和田 正	小宮山広幸	小宮山 宏
新町	磯野 真	黒岩 千尋	望月 暁	千野 純一	古谷よし子
坂端	高橋 光博	高橋 裕次	竹内 秀雄	高橋 憲彦	丸山 真哉
苅屋原	荒井 俊博	水出 裕二	中田 次夫	水出厚太郎	荒井 義範
網掛	金子 敏夫	荒川 正朋 大井 卓磨	塩野入賢司	浅野井 直	宮寄 正剛
上五明	柄沢 満則	細田 充 塚田 貴彦	関屋 義雄	塚田 武志	宮川美佐江
上平	菊原 英人	滝澤 悦子	平林 睦子	大橋 勉	甲斐澤文人
小網	太田 好友	吾妻 忠明	東城 幸子	宮澤 和樹	吾妻 幹夫
月見	瀬下 誠	中村 光平	佐藤 公明	宮尾 裕之	嘉生 直樹

本館専門部員のみなさん

専門部は、町公民館の事業をそれぞれ分担して企画立案し、公民館運営の要として活動します。

総務部

町公民館事業全体を検討し、推進します。

部長 荒巻 春也 (横町)
副部長 柄沢 満則 (上五明)
清水 守 (新地)
山崎 只彦 (中之条)
高橋 光博 (坂端)

文化部

文化事業を企画し、運営します。

部長 田中 健二 (金井)
副部長 宮原 賢治 (四ツ屋)
米田 裕行 (鼠宿)
平林 睦子 (上平)
佐藤 公明 (月見)

体育部

健康増進のため体育事業を企画し、運営します。

部長 大畑 良多 (泉)
副部長 小山 歩美 (旭ヶ丘)
赤池 茂夫 (戌久保)
中沢 慶一 (込山)
内山 和久 (南日名)
小宮山広幸 (大宮)

広報部

公民館報を編集し、発行します。

部長 宮寄 正剛 (網掛)
副部長 小宮山栄子 (田町)
竹本 修 (町横尾)
山崎 敏雄 (北日名)
吾妻 幹夫 (小網)

コロナにまけず 公民館文化講座 開講

さかきふれあい大学公民館文化講座が、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じ、開講しました。多くの受講生が集まる開講式は行わず、講座ごとの開講となりました。

「文化は、人と人とのかかわりの中にある。人が集まれば、どこにも文化がある。」

コロナ禍の中でも、文化の灯を大切に守り続けています。

木彫



コーラス

お詫びと訂正について

前号(394号)5ページに掲載した杵掛喜久男様の詩の文句が誤っていました。訂正した詩を掲載するとともに、お詫び申し上げます。

第二十五回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

【現代詩の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞 晩年 杵掛喜久男(横町)

この世の大方終わったので
破るばかりの娑婆の地図

いまだに残る俺の詩の
一行づつを消してゆく

本を売り薔薇を買う
貸借対照表が待ちうける

生涯に飲むべき
酒量は超えて一括り

残んの酒を啜るとき
黄色い太陽沈みゆく

運転経歴証明書たずさえて
老いゆく自由

置いてけぼりを
循環バスが抱いてくれし

5000字リレートーク わたしが学んだ科学

柳澤 恭平

私はこの春、大学を卒業しました。大学では語学や数学などの教養を身につけたほか、分子生物学を専攻しました。研究室では、生命の設計図たるDNAを読み取る装置を扱いました。生命の神秘がたった四種の塩基の配列で記述されるとは、なんとも不思議なことです。

研究に打ち込む中で、こんなことを考えました。科学の営みは、この世界の設計図を解き明かそうとする点で、宗教に似ているのではないかと。なまじ科学が自然現象をうまく説明しているのに、科学を真実そのもののように思いがちですが、そうとも限りません。科学は観察された現象どうしの間に、理



論という空想を見ているに過ぎず、その意味で、一種の宗教だとさえ言えそうです。世界の仕組みを記述する物語の一つとして、科学を絶対視しないほうが無難だと思っております。

一方で、科学を人類の英知として信じてみたい気持ちもあります。いつか私があの世に行ったら、ニュートンの運動方程式に始まる自然科学の体系が、世界の設計図にどこまで迫っているか、でき具合を神様に聞いてみたいのです。ですが、幸いあの世に行くまでには、まだ時間がありそうです。新社会人として、まずは人生の広大な前途を設計することになります。

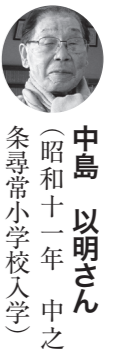
次は、櫻井貴史さんです。

立町区新公民館落成式



3月28日、立町区の新公民館の落成式及び内覧会が行われました。全室にエアコンを設置したり、手すりの設置などバリアフリー化を進めたりして、快適な環境が整えられています。また、新型コロナウイルス感染症の対策として、手洗い場には自動水栓が設置されています。この新公民館を基点として、立町区のみなさんのつながりがさらに深まることでしょう。新公民館の建設にあたっては、分館等施設整備事業補助金の制度を活用し、町から建設資金の50%を上限に補助されました。この制度は、各分館の改修等に適用されますので、ご検討ください。

に格致学校校舎の前で記念写真を撮った。



中島 以明さん
(昭和十二年 中之条尋常小学校入学)

この校舎使用したつてのは、音楽室ぐらいのもんだね。あとほとんど使わないね。理科準備室は減多に入らなかつたし。職員室だつて、それこそ入ったことないし。音楽室で、オルガンがあつたことぐらい。音楽をやつてる最中に、階段入つて来たな。二階で裁縫だか何だか、女性つきり。二階は畳敷いてあつた。

廊下は、傷めばその上へ板を載せるから、段になつてたよ。平らになつてなつてないで、時折廊下に段があつた。

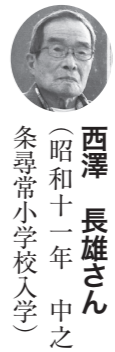
教室棟の思い出

北校舎は、西から一年二年：六年と六教室あつた。三年と四年の教室の間は仕切りを外せた。祝日祭日の生徒の祝賀会などやると

き、取っ払いにして、そこでみんな集まって式典やつた。机や腰掛は先生たちが廊下へ出してきて。明治節だとか天長節だとか、行事という行事をみんなそこでやつた。小学校六年までこつちで勉強した。

新校舎は、学校改革だかがあつて、高等科は今まで坂城行つたのが、中之条にできるよになつて。体育館や奉安殿があつた場所に2階建てで六教室の新しい校舎ができた。あの時分、学校改革で、六年生で学校終わつてもいいし、そのあと高等科一年、二年つて入つて、そのあとまた上級学校行きたけりや、上田とか東校の学校出たんだだけね。六年で卒業して、上田中学(現在の高校)へ行つた人もあるし。取りこぼしみたいなのが(笑)高等科つて言つて、二年まで新しい校舎で勉強して。おらは高等科二年まで行つて、上田行つたけど。おらの年代はほとんど高等科行つたよね。ちよ

うどあれ、改革の時分だと思ふよね。戦争中だね。(注：昭和十六年に国民学校令が出され、尋常小学校は国民学校と改称。翌十七年に中之条国民学校に高等科が創設された。それまでは高等科へ進学する者は坂城尋常高等小学校へ通つた)



西澤 長雄さん
(昭和十一年 中之条尋常小学校入学)

二階にミシン

二階はほとんど、女子生徒の裁縫の教室だつたですよ。あの当時とすればミシンなんてどこのうちにもある機械ではなかつたですよ。けど、ミシンがあつてね。足踏みの。今のようポタでちゃんと回るつてもんじゃないですよ。階段上がつて来た右側の部屋、小さな部屋で、後ろに、西向きに御真影を飾る祠つていうかお宮があつたもんですよ。

ポンプ室

わしら小学校一年のとき

には、銃器室(銃機室)の隣がポンプつてなつてますよ。資金の関係かなんかで。四年か五年頃だと思ふけど、あの坂を下つた下に、小川さんてお宅があるけれど、その南東の隅に水の湧き出る井戸があつてね。あの坂を上がつて平らに行つて、それでポンプ据え付けて汲み上げていた、そういう便宜を図つてもらつた記憶はあります。俗に言う、押し上げポンプつていうので。具合良かったですよ。

理科準備室の模型

一番やだかつたのはね、この廊下通つて音楽室行つたけれど、ちよつとこう横を向けば、理科準備室にある人体模型の、上が外してあつて内臓が見えたのが記憶にあります。この廊下なんて目を凝らさなければならぬほど暗かつたですよ。外からの明かりとりもなかつたですよ。暗いっつてのは記憶にありますね。教室だつて電気ついてる部

屋は一つもなかつたですよ。今の中学校の前を毎日通つてみるけど、いい環境で勉強してますよ。

白壁の奉安殿

体育館作るんでもつて、奉安殿、坂上つたすぐ南側へ移動しただよな。それが終戦までそこにあつたものですよ。終戦が一段落したところでもつて、これを払い下げたですよ。中之条の三井さんていう方が買われて。瓦屋根で白壁の一階建てですよ。

水蜜桃

一番楽しみだつたのはね、校庭の一番東に、水蜜桃つていうだかね。六、七本はあつてね。東側が崖になつててね、明日から夏休みだよつていうときに、上級生がそれ採つてみんなに配つて。三年ぐらいはもつたわな。

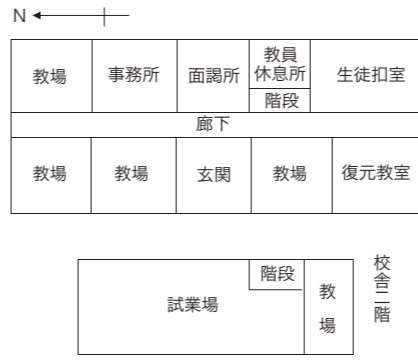
後編は令和四年五月発行分に掲載の予定です。

(本間美麻)

特集 ふるさと探訪 PART 110

もっと知りたい！格致学校！ ～卒業生に聞く、校舎の思い出(前編)～

町立図書館に隣接する「県宝 旧格致学校校舎」は、明治十一年建築の校舎です。現存する校舎としては、中込学校(佐久市)、開智学校(松本市)に次ぐ古さです。元々は、中之条の雇用促進住宅周辺に所在し、昭和三十七年に校舎としての用途を終えるまで、内部を改変しながら八十一年以上使用されました。昭和五十一年に県宝に指定され、昭和五十八年に現在地へ移築し、建築当初の姿に復元され、「格致学校歴史民俗資料館」として見学できるようになりました。



〔移築復元後平面図〕
〔県宝旧格致学校校舎移築復元工事報告書〕を基に作成

現在私たちは明治十一年の姿を見ることができません。移築直前の姿を知ることはできません。そこで、実際に校舎として使用していた方々からお話をお聞きし、そこから格致学校校舎の現役時代を少しでも描き出してみたいと思います。

今回ご協力いただいた方々は、格致学校が中之条尋常小学校と名を変え、さらに中之条国民学校となつて行く時代に通学されていきました。既に格致学校校舎の北側に教室棟が建設されていた、大正初期の校舎配置図を基に、お話をしていたいただきました。その抜粋を二回にわたり掲載します。

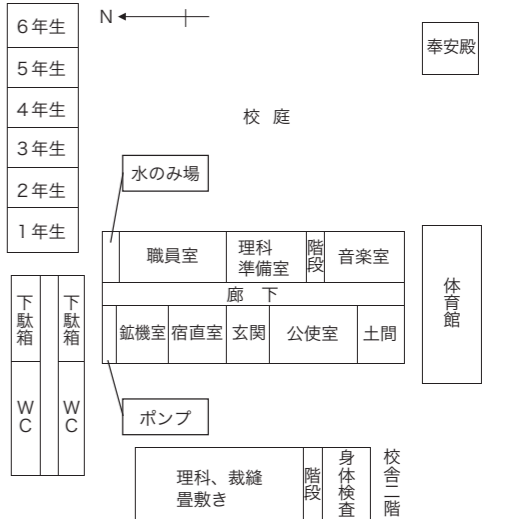


柳澤 久さん
(昭和十年 中之条尋常小学校入学)

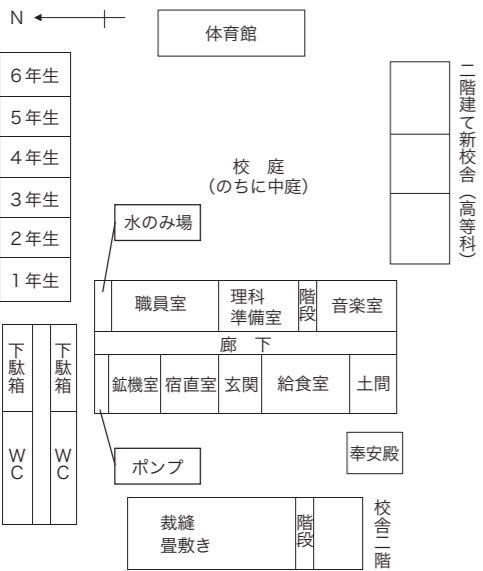
窓から出された

玄関の隣が宿直室で、鋳機室つてのは、三八式歩兵銃や何か、立てて並べて、在郷軍人が使うために保管してあるとこだ。水飲み場もここに

〔配置図①〕柳澤久さんのお話から再現した校舎配置図(昭和10年頃)



〔配置図②〕中島良治さん・西澤長雄さん・中島明さんのお話から再現した校舎配置図(昭和10～17年頃)



あったなあ。ポンプ室は井戸から水をポンプで上げておいて、みんなに渡るようになった。よ。ポンプって、押し上げポンプだよ。火事になった時のポンプの道具もあった。ここは外と同じようなもんだ。玄関の反対の方は、公使室。小使さんがここに泊まつて、時間になるとリンを振つて、休みの時間だ、始まる時間だ、つて鳴らす。音楽室にはオルガンがあった。隣が庭だから、庭の方で他の生徒が何かやってるの眺めてれば、「おめも一緒にそんなところ行って遊んで来お」なんて言われて、先生に窓から出されたもんだ(笑)。職員室がここだから、庭で遊び方してれば先生が出てきて、「何してるんだ?」とか、みんな怒られたもんだ。二階は畳の部屋だった

理科準備室には、地球儀があったりして、二階は、それを使って教える場所だった。地球が何度だかかしかつて、太陽の周り回って歩いて、頭の方へ太陽が来るときには夏になるし、下へ行くときには冬になる。道具を準備室から2階へ持ち上げて行って、勉強した。それから、女子生徒が裁縫教わる時の裁縫室にも使つた。片方の小さな部屋は、身体検査とかに使つていた。二階は村で会合がある時にも使つていた。学校を卒業してから、集まる場所つてこののであるでしょ。おれたちん時は戦争中の軍隊の一式ここに揃えてあった。鉄砲と機関銃と背囊と。おれたちも学校卒業して十五、六歳だなあ、青年学校つてのがあった。その時に、鋳機室にある背囊と鉄砲と拳銃と、それを背負つて軍隊教練受けた。校庭でな。軍隊から年季で帰つて来た人が指導員になつて。だから背囊は軍隊の背囊だし、鉄砲も旧式の長い鉄砲で。そんな訓練を受けた。小学校の生徒たちは銃器室(鋳機室)を見に行つたもんだ。他の会議もここでやったことある。青年団つてのあつてね。二階が空いてないときはこの銃器室(鋳機室)でやったことある。青年団の会合は二階でやったもんだ。畳敷いてあるから。他に広間ねえから、昔の青年団つてのは何人もいたから、大広間でなきゃ収容できなかった。成人式(中之条村成年祭)もここでやった。そのとき(昭和二十三年)

こしかないから、戦後は新憲法の話聞いたり、弁論大会やつたりして、青年部みたいなので夜使つていた。畳の部屋だった。

校庭に奉安殿があった

校庭に奉安殿つてのがあつて、式とか何かの時は、校長先生が深々と拝んで、天皇陛下の御真影を持って出てきた。その場に生徒がいれば、みんな同じように頭下げたもんだ。戦争で負けてからこつち、そういうことはなくなつてきた。校庭では野球したり。ホームランなんか打てば、お寺(西念寺)に入ったらアウトだぞ、なんて言つたもんだ。アウトにしなければ球拾いに行くのに容易じゃねえだ(笑)。

裸足の人も

鞆は、一年からだいたい横つちよで、肩から掛ける。ランドセルを背負つてく者は、組に一人かそこらだ。洋服の子ども、着物の子ども、色々だった。五、六年になった時分には、みんな洋

服になつたな。上履きは、履く者に、履かない者に。裸足の人もいて、色々だ。年寄の言葉

明治十一年かな、こしらえたのは。材木は山から採つて来て、村民は山から二本伐り出して来れば一本はその人にくれて、一本は運んで行く。山の便の悪いところの木は、三本伐つたら二本はくれて、一本は学校作る材料にしたつて。そういうことを聞いている。「そうま」つて人が来て、材木を切つて板にしたり、柱にしたり、材料をこしらえたつて話だ。(注:「そうま」は柚のことだと思われる)。それが何尺じゃなくて、フィート。日本の建築は尺でやってたけど、これはフィートでとつたつていうから。

十一年に明治天皇がこちへ車で来た(注:明治天皇北陸巡幸のこと)。ちょうどそのときこしらえてる最中で、立ち寄つて見てくれるつて言つたけど、立ち寄らねえで、本気になつてやっ



中島 良治さん
(昭和十年 中之条尋常小学校入学)

味噌汁煮てくれた

公使じゃなくて、給食室になつてたなあ。カマドがあつてさ、公使つて人がこの部屋にいて、学校の掃除やつたり、お湯沸かしたり。若い先生が長野から来て、ここで釜でご飯炊いて、お昼は生徒と一緒に教室で

二階建て新校舎(高等科)

食べた。公使のおばさんがやつてるときと、それから少したつて、何年生のときだか、給食になつたなあ。給食やるには、生徒のお母さんたちが当番で来て、味噌汁煮てくれた。それでおれたちが当番でバケツ持つて、その味噌汁もらつて来て、教室でみんなにくれた。ご飯は自分で弁当持つて来る。ただ味噌汁だけ。それだけはやつてくれた。音楽室で勉強してる時、外の校庭で運動やつてるのを見ちゃつて、そしたら先生が、「おい、仲間にしてくれや」つて、音楽室にいる生徒を外へ出しちゃつた。春原先生。雨宮か土口から来た先生。鋳機室つてた先生。そのとき(昭和二十三年)